

鉢物日持ち性向上生産管理基準（シクラメン：施設）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考
日持ち向上栽培管理	1	除草・清掃をする	灰色かび病の感染減をなくす	
	2	圃場衛生 適切な病害虫防除対策を講ずる	種子消毒の実施 感染株の早期発見・除去と定期的な薬剤散布 鉢替えや葉組み後の芽点への病害予防剤散布	
	3	栽培資材の洗浄と消毒 底面給水樋、マットなどの栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	葉腐細菌病等の病害の持ち込みをなくす	
	4	かん水管理 適切にかん水をする	栽培前半：根域の発達を促すため、上部灌水もしくは間断灌水 栽培後半：花蕾には水をかけない管理	
	5	施肥管理 適切な施肥管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける	観賞時の葉の黄化を防止する	
	6	温湿度管理 最低加温15℃前後とし、日中は25℃を目安に適切な換気を行う	多湿・結露を避け、花蕾の灰色かび病を防ぐ 光合成の盛んな朝夕には、十分な換気によって高いCO2濃度を確保する	
	7	光環境 被覆資材の洗浄等で十分な光量を確保する	光合成・着色の促進	
作業場・出荷場	8	清掃 作業終了後には清掃をする		
	9	室温 室温は25℃以下		
出荷	10	出荷調整 無理な出荷調整を行わず、出荷適期となったものから順次出荷 黄化した葉や傷んだ花を取り除く	黄化葉や傷んだ花を取り除いて灰色かび病の蔓延を防ぐ	
	11	出荷時水分管理 出荷予定の鉢は充分なかん水を行い、水分不足がないよう事前に確認する		
	12	箱詰め・ラッピング 花や葉を傷めないようにする		
	13	出荷までの保管 10～20℃の室内で、強光および高湿度を避ける	低温障害と花蕾の灰色かび病を防ぐ	
栽培履歴	14	栽培履歴 栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	15	コミュニケーション 商品の情報発信、評価の情報収集		
	16	ラベル、ポップ等の添付 水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	17	クレーム処理 クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	18	指導機関の指導 定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

鉢物日持ち性向上生産管理基準（アジサイ:施設・促成・フレッシュカラー）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考
日持ち向上栽培管理	1 圃場衛生	除草・清掃をする	ウドンコ病の感染源をなくす スリップスの宿主を除去する	
		適切な病害虫防除対策を講ずる	感染株の早期発見・除去と定期的な薬剤散布により、感染をなくす	
	3 栽培資材の洗浄と消毒	底面給水樋、マットなどの栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行うとともに、清潔な用土を使用する	病原菌の持ち越しをなくす	
	4 かん水管理	通期にわたり水切れしない管理を行う 底面吸水の場合は常時湛水避け、間断湛水を心がける	萎れ癖、根痛みの防止	
	5 施肥管理	出荷色にあわせた適切な用土選択・施肥管理を行う	ブルーでの出荷時には過剰な施肥は避け、ピンクでの出荷時には観賞期間中に肥料が切れないう、肥料の選択・施肥量に留意する	
	6 温湿度管理	萌芽後は10℃以下、25℃以上にならないよう管理する	低温による葉先の変色や痛みを防止する 高温による地上部の過剰生長に起因する萎凋、しおれ癖を防止する	
			適度な温室内湿度の維持	好天や強風等による極端な湿度低下は花房割れの原因となり、出荷後の品質低下を助長する 高湿度下で栽培すると、出荷後の低湿度条件でしおれやすくなる
	8 光環境	被覆資材の洗浄等で十分な光量を確保する	光合成・着色の促進	
			着色開始後は着色に影響のない範囲で適切な遮光を行う	花房割れ、しおれ癖の防止
作業場・出荷場	10 清掃	作業終了後には清掃をする		
	11 室温	高温・強光を避け20℃を目安に換気する		
出荷	12 出荷調整	適度に着色した株から順次出荷し、着色不十分な株の出荷を行わない 黄化した葉や傷んだ花を取り除く	消費段階での観賞性低下防止 病害の蔓延を防ぐ	
	13 出荷時水分管理	出荷予定の鉢は充分なかん水を行い、水分不足がないよう事前に確認する	流通段階での乾燥を予防する	
	14 箱詰め・ラッピング	品種に応じて支持材等を利用して花房を物理的に固定する 花や葉を傷めないようにする	輸送中の振動による花房割れを予防するため	
	15 出荷までの保管	強光・風を避け、10～20℃程度で保管し、特に高温には注意する	萎凋を防ぐ	
栽培履歴	16 栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	17 コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	18 ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	19 クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	20 指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、16以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No16とNo20は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ペゴニア類）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考
日持ち向上栽培管理	1 圃場衛生	除草・清掃をする 床面からの返り水がないようにする	スリッパ等の感染源をなくすと共に、土や水の跳ね返りによる斑点細菌病への感染を回避する	
	2	病虫害防除対策を講ずる	灰色かび病、スリッパ等の感染源をなくす	
	3 栽培資材の洗浄と消毒	育苗ベンチなどの栽培施設および鉢等の栽培資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	挿し穂を自家採取する場合はナイフ等も消毒する	
	4 かん水管理	適切にかん水する 葉に直接水がかからないようにする	土壌の過湿や葉への水溜まりによる斑点細菌病や灰色かび病への感染を回避する	
	5 施肥管理	適切な施肥管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける	窒素過剰は奇形花の発生を助長するアンモニア窒素態の割合が高いと花蕾数が減少する	
	6 温湿度管理	最低15℃、最高25℃を目安に管理する	低温による生育の停滞と高温による光合成の低下を回避する	
	7 光環境	適切な遮光を行う	強光による葉焼けを回避する	
	8 日長制御	季節に応じて適切な日長制御を行う	長期間の短日は茎頂部に花芽を生じ、花蕾数が減少する	
作業場・出荷場	9 清掃	作業終了後には清掃をする		
	10 室温	25℃を目安に換気する		
出荷	11 出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調節を行わない 黄化した葉や傷んだ花を取り除く		
	12 出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する		
	13 箱詰め・ラッピング	花や葉を傷めないようにする	傷害エチレンの発生に注意する	
	14 出荷までの保管	10～20℃の室内で、強光および高湿度を避ける	低温障害と灰色カビ病の発生を防ぐ	
栽培履歴	⑮ 栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	16 コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	17 ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	18 クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	⑲ 指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、15以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No15とNo19は必須

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ポットカーネーション）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする	灰色かび病、スリップス等の感染源をなくす	
	2		病害虫防除対策を講ずる		
	3	栽培資材の洗浄と消毒	育苗ベンチなどの栽培施設および鉢等の栽培資材は、作付け前に清掃・消毒を行う		
	4	かん水管理	適切にかん水する	生育前半は、根の発達を促すため、頭上灌水もしくは間断かん水を行う 生育後半は、過かん水による蒸れの発生を抑えると共にかん水不足による株割れに注意する	
	5	施肥管理	適切な施肥管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける	窒素過剰による過繁茂と窒素不足による葉色の低下、カリ不足による葉先枯れや奇形葉の発生を防止する	
	6	温湿度管理	20℃以下を目安に換気し、できるだけ昼夜温の較差を小さくする	開花促進を目的とした過度の蒸し込みをしなくて済むように日頃の温度管理に気をつける	
	7	光環境	最低限の遮光とする	光合成をできるだけ低下させない	
作業場・出荷場	8	清掃	作業終了後には清掃をする		
	9	室温	20℃を目安に換気する		
出荷	10	出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調節を行わない 黄化した葉や傷んだ花を取り除く		
	12	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する		
	13	箱詰め・ラッピング	花や葉を傷めないようにする	傷害エチレンの発生に注意する	
	14	出荷までの保管	極力明るい場所で保管し、出荷準備ができたものは早めに出荷する	光不足による花の萎れを回避する	
栽培履歴	15	栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	16	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	17	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	18	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	19	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関を記入

(注1) 自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、15以上あれば、該当項目の具体的な作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2) No15とNo19は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（カラコエ）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする		
	2		病虫害防除対策を講ずる		
	3	栽培資材の洗浄と消毒	育苗ベンチなどの栽培施設および鉢等の栽培資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	挿し穂を自家採取する場合は、ハサミ等も消毒する	
	4	かん水管理	適切にかん水する	かん水が過剰になると花序が伸びて草姿が乱れる	
	5	施肥管理	適切な施肥管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける		
	6	温湿度管理	最高25℃を目安に、生育に適した気温を保ち多湿を避ける		
	7	光環境	夏季には遮光により強日射を防ぎ、冬季には被覆資材の洗浄等で十分な光量を確保する	強光による葉縁の黄化や葉焼けと、弱光による徒長を防止する	
	8	日長制御	できるだけ高温にならないようにし、適切な期間短日処理を行う	高温期の短日処理不足による開花遅延、花数の減少、奇形花発生を防止する	
	9	植物成長調整剤等の処理	必要最低限の処理にとどめる	花序の徒長を防止	
作業場・出荷場	10	清掃	作業終了後には清掃をする		
	11	室温	25℃以下を目安に高温にならないようにする		
出荷	12	出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調整を行わずに、季節に合った開花状況のものを出荷する	夏季は開花の進み過ぎを避け、冬季はより開花の進んだ状態で出荷する	
	13	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する		
	14	箱詰め・ラッピング	花や葉を傷めないようにする		
	15	出荷までの保管	15～25℃の室内で、強光・高湿度を避ける		
栽培履歴	⑩	栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客様対応	17	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	18	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	19	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	⑪	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、16以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No17とNo21は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ポインセチア）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする		
	2		病虫害防除対策を講ずる	コナジラミ類の蔓延を防ぐ	
	3	栽培資材の洗浄と消毒	底面給水樋、マットなどの栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行う		
	4	かん水管理	適切にかん水する	徒長を防ぐ 低温期の過湿は根いたみの原因となり、落葉を促進する	
	5	施肥管理	適切な施肥管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける	硝酸態窒素を主とした施肥設計を行う 過剰な施肥は、観賞時の落葉や苞葉の変色を促進し、品質低下を助長する	
	6	温湿度管理	冬季の栽培では10℃以上に加温し、日中は25℃を目安に適切な換気に努める	多湿・結露による苞葉の変色を防止する	
	7	光環境	被覆資材の洗浄等で十分な光量を確保する	光合成を促進する	
	8	植物成長調整剤等の処理	必要最低限の処理にとどめる	わい化剤処理は観賞時の落葉を促進する可能性がある	
作業場・出荷場	9	清掃	作業終了後には清掃をする		
	10	室温	15～25℃を目安に管理する	低温では苞葉が変色する	
出荷	11	出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調整を行わない		
	12	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する		
	13	箱詰め・ラッピング	花や葉を傷めないようにする		
	14	出荷までの保管	15～25℃を目安に管理する	低温では苞葉が変色する	
栽培履歴	⑮	栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	16	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	17	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	18	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	⑲	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、16以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No17とNo21は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ポットマム）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする		
	2		適切な病害虫防除対策を講ずる		
	3	栽培資材の洗浄と消毒	育苗ベンチなどの栽培施設および鉢等の栽培資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	挿し穂を自家採取する場合ははさみ等も消毒する	
	4	かん水管理	適切にかん水する		
	5	施肥管理	適切な施肥管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける		
	6	温湿度管理	最低15℃、最高25℃を目安に、生育に適した気温を保ち多湿を避ける		
	7	光環境	夏季は適切に遮光をして強光を避け、冬季は被覆資材の洗浄等で十分な光量を確保する	日照不足時や高温期の花色への影響や開花遅延を防止する	
	8	日長制御	電照とシェードを適切に行い、開花を揃える	栄養成長と花芽分化を制御	
	9	植物成長調整剤等の処理	鉢とのバランスに配慮し、適切な処理を行う	処理が遅れると、花の大きさや花弁数に影響することがある	
作業場・出荷場	10	清掃	作業終了後には清掃をする		
	11	室温	室温は25℃以下		
出荷	12	出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調整を行わない		
	13	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する		
	14	箱詰め・ラッピング	花や葉を傷めないようにする		
	15	出荷までの保管	強光・高湿度・低温を避け、適温で保管する		
栽培履歴	16	栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	17	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	18	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える特性や管理方法の注意点を記載		
	19	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	20	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1) 自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、16以上あれば、該当項目の具体的な作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2) No16とNo20は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ペリカサス・サイネリア）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする	ウドンコ病の感染源をなくす スリップス、ハダニ、コナジラミ等の宿主を除去する	
	2		適切な病害虫防除対策を講ずる	感染株の早期発見・除去と定期的な薬剤散布により、感染をなくす	
	3	栽培資材の洗浄と消毒	底面給水樋、マットなどの栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	病原菌の持ち越しをなくす	
	4		清潔な用土を使用する	病原菌の持ち込みをなくす	
	5	かん水管理	通期にわたり水切れしない管理を行う 底面給水の場合は、常時湛水を避け、間断湛水を心がける	しおれ癖の防止と根痛みの防止	
	6	施肥管理	肥料切れを起こさない管理を心がける	生育期間中に肥料が切れると、生育の鈍化、茎葉の黄化のみならず、観賞期間中の品質低下につながる	
	7	温湿度管理	鉢上げ後は最低12℃以上、花芽分化期以降は最低5℃以上で低温管理する 極端な乾燥と過湿を避ける	鉢上げ後の低温は根の生育不良による萎凋を助長する 花芽分化以降の過度な加温は避ける	
	8	光環境	被覆資材の洗浄等で十分な光量を確保し、強光線時には遮光する	徒長の予防、光合成の促進、萎凋の防止	
作業場・出荷場	9	清掃	清掃を徹底する		
	10	室温	15℃を目安に換気する		
出荷	11	出荷調整	適度に着色した株から順次出荷し、開花が進みすぎているものは出荷しない 黄化した葉や傷んだ花を取り除く茎葉や花に水滴が付いた状態では出荷しない	消費段階での観賞性低下防止 ボトリチス・病害の蔓延を防ぎ、エチレンの発生源を取り除く	
	12	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する	流通段階での乾燥を予防する	
	13	箱詰め・ラッピング	ラッピング時には花や葉を傷めないようにする	エチレンの発生を予防する	
	14	出荷までの保管	強光・風を避け、5～15℃程度で保管し、特に高温には注意する エチレンを出すようなものと同梱しない	萎凋・老化を防ぐ	
栽培履歴	⑮	栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	16	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集	共選の場合は農協等から情報収集	
	17	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える 特性や管理方法の注意点を記載	直射日光に当てないなどの注意喚起をする	
	18	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	⑲	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、15以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No15とNo19は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ファレノプシス）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする	
	2		適切な病害虫防除対策を講ずる	
	3	栽培資材の洗浄と消毒	栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	
	4	かん水管理	適切にかん水をする	根張りがよく徒長のない良好な草勢
	5	施肥管理	適切な施肥管理を行い、多窒素や肥料切れを避ける	多窒素では開花が抑制されることがある
	6	温度管理	夏季は高温を避け、冬季は15℃以上に加温	軟弱徒長を防ぐ。乾燥すると光合成が低下し、過湿は病害の蔓延を助長する。花卉に灰色かび病が発生しないよう注意する
	7	湿度管理	過度な乾燥と過湿を酒、開花後は結露させない	
	8	光環境	夏季は75%程度の遮光、冬季は50%程度の遮光とする	光合成の促進、軟弱徒長を防ぐ
作業場・出荷場	9	清掃	清掃を徹底する	
	10	室温	できるだけ高温を避ける	
出荷	11	出荷調整	花、花茎、葉に傷や変色がないもの、満開ではなく少なくとも蕾が1つ残っている株を選ぶ	低温期はよく開花させる。ミディタイプは大輪よりも蕾をやや多く残すようにする
	12	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する	
	13	寄せ植え	培地にすき間が生じないようにする	ポリポットを外して培地にすき間が生じないように寄せ植えを行う
	14	箱詰め・ラッピング	輸送中に花が傷つかないようにする	
	15	出荷までの保管	15～30℃の室内または冷暗所で保管し、エチレンに暴露させない	
栽培履歴	⑩	栽培履歴	移植日、寄植え日、冷房開始日、かん水等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠
お客さま対応	17	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集	共選は農協等から情報収集
	18	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える 特性や管理方法の注意点を記載	直射日光に当てないなどの注意喚起をする
	19	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる
指導機関	⑪	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要 指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、16以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No16とNo20は必須。

鉢物日持ち性向上生産管理基準（シンビジウム）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする		
	2		病虫害防除対策を講ずる		
	3	栽培資材の洗浄と消毒	栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行う		
	4	かん水管理	適切にかん水をする		
	5	施肥管理	花芽分化期には施肥量をやや少なくし、花芽の形成を促進させる	根張りがよく徒長のない良好な草勢 体内窒素レベルが高いと花芽の形成が遅れ、花蕾数も減少する	
	6	温湿度管理	夏季には30℃以上の高温を避け、冬季は10℃以上に加温する。適切に換気し、湿度を下げる	高温・多湿は葉温の上昇をもたらし、株の充実を不良としたり、葉を徒長させる	
	7	光環境	高温期には遮光を行うが、品種に適した遮光率とする	赤色、ピンク系では高照度で花色の発現がよいが、黄色や緑色では低照度の方が好ましい発色となる。	
作業場・出荷場	8	清掃	作業終了後には清掃をする		
	9	室温	室温は20℃以下を目安とする		
出荷	10	出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調整は行わない		
	11	出荷予措・順化处理	低温での順化を行う際は、緩やかに加温温度を下げ5℃程度で行う		
	12	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する		
	13	箱詰め・ラッピング	花や花茎、偽球茎、葉を傷めないようにする		
	14	出荷までの保管	15℃以下の室内、エチレンに暴露させない		
栽培履歴	15	栽培履歴	移植日・山上げ・山下げ・花芽形成・開花日などの履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	16	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集を行う		
	17	ラベル、ポップ等の添付	水やり、施肥の方法、適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	18	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	19	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、15以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No15とNo19は必

鉢物日持ち性向上生産管理基準（ノビル系デンドロビウム）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする	
	2		病害虫防除対策を講ずる	
	3	栽培資材の洗浄と消毒	鉢等の栽培資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	
	4	かん水管理	適切にかん水をする	
	5	施肥管理	開花当年は過剰な施肥にならないよう注意する	根張りがよく徒長のない良好な草勢 体内窒素レベルが高いと花芽の形成が遅れ、花蕾数も減少する
	6	温湿度管理	生育を左右する最も重要な要因であるので、品種に合わせた適切な温度とする 適切に換気し、湿度を下げる	花芽分化は10ないし15℃の低温により誘起されるが、20℃を超える温度は抑制する
	7	光環境	生育段階に応じた適切な遮光を行う	光合成を促進させ、軟弱徒長を防ぐ
作業場・出荷場	8	清掃	作業終了後には清掃をする	
	9	室温	できるだけ高温を避ける	
出荷	10	出荷調整	開花の揃った株から順次出荷し、無理な出荷調整は行わない	小輪系では蕾を30～40%、大輪系では10～20%残す 植え込みにすき間がないこと
	11	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、水分の過不足がないよう事前に確認する	
	12	箱詰め・ラッピング	花や花茎、偽球茎、葉を傷めないようにする	
	13	出荷までの保管	10～25℃の室内または半日陰で保管する エチレンに暴露させない	
栽培履歴	⑭	栽培履歴	移植日、寄植え日、止め葉発生、開花日の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠
お客さま対応	15	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集をする	
	16	ラベル、ポップ等の添付	特性や管理方法の注意点を記載する	
	17	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる
指導機関	⑮	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要 指導機関名を記入

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、14以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No14とNo18は

鉢物日持ち性向上生産管理基準（鉢物一般）

項目	チェックポイント	基準	解説	備考	
日持ち向上栽培管理	1	圃場衛生	除草・清掃をする	病害虫の感染源を除去する	
	2		病害虫防除・対策を講ずる	同上	
	3	栽培資材の洗浄と消毒	底面給水樋、マットなどの栽培施設および鉢等の資材は、作付け前に清掃・消毒を行う	同上	
	4	かん水管理	適切にかん水をする		
	5	施肥管理	適切な肥培管理を行い、出荷期の多窒素や肥料切れを避ける	過剰な施肥や、肥料切れは日持ちの短縮につながる	
	6	温湿度管理	品目および生育段階に応じた適切な温度管理を行う		
	7	光環境	品目および生育段階に応じた適切な遮光管理を行う		
	8	日長制御	品目および季節に応じた適切な日長制御を行う	不必要な日長処理は日持ちの短縮をまねく	
	9	植物成長調整剤等の処理	必要最低限の処理にとどめる		
作業場・出荷場	10	清掃	作業終了後には清掃をする		
	11	室温	室温は25℃を目安に換気する		
出荷	12	出荷調整	痛んだ部位を除去清掃し、適期のものから順次出荷する 無理な出荷調整は行わない		
	13	出荷予措・順化処理	CO2施用を行う際は、出荷前3週間800～1000ppm程度を目標とする 低温での順化を行う際は、緩やかに加温温度を下げ5℃程度とする		
	14	出荷時水分管理	出荷予定の鉢は、容水量の過不足がないよう事前に確認する		
	15	箱詰め・ラッピング	花や葉を傷めないようにする	エチレン感受性の品目については特に注意する	
	16	出荷までの保管	適温で管理し、日持ちが短縮するような高温、低温、強光、弱光をさけて保管する		
栽培履歴	⑰	栽培履歴	栽培および出荷日等の履歴を記録する	消費者、花店等からのクレームの原因究明と、品質向上に不可欠	
お客さま対応	18	コミュニケーション	商品の情報発信、評価の情報収集		
	19	ラベル、ポップ等の添付	水やりや施肥の方法や適切な環境など、日持ちのする観賞条件を伝える		
	20	クレーム処理	クレーム内容と対応を記録する	クレームの内容および対応を記録することで品質低下の要因を探ることができる	
指導機関	⑱	指導機関の指導	定期的に指導機関の技術指導を受ける	客観的な視点からの意見が経営改善、品質向上に重要	指導機関名を記入

※ 本基準は、品目別生産管理基準が策定されている11品目以外の品目に適用する。

(注1)自己診断で、基準に適合している場合は、チェックポイントの数字に「○」を付け、16以上あれば、該当項目の具体的作業手順を記した「自己実施計画」を作成し、認証を申請することができます。(注2)No17とNo21は必須。